

令和2年10月1日

木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟

会長 衛藤 征士郎 殿
 会長代行 太田 昭宏 殿
 幹事長 原田 義昭 殿
 共同幹事長 石田 祝穂 殿

林野庁 長官
 本郷 浩二 殿

令和2年10月1日

一般社団法人
 木の総合文化・ウッドレガシー
 会 長 原 康

要望書

議員連盟の将来の展望は21世紀の最大課題である地球温暖化防止・削減が議員連盟の成長産業化と密接に関わっている。1950年の「都市建築物の不燃化の促進に関する法律」、同年の「建築基準法」、1955年の「都市建築物の不燃化の促進に関する法律」等によって、木材利用が削減され、住宅市場も削減されて事業規模に於いて、約70%削減した。2006年「地球温暖化対策の推進に関する法律」(住宅や公共の建築物の省エネルギー等)等によって、木材利用が削減された。2008年の「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」(木材利用促進法)によって、木材利用抑制政策から、地球温暖化対策の推進と木材利用促進が両立するようになった。削減した70%の事業規模を議員連盟が失地回復し、新たな成長を可能とする国の政策が求められている。

要望書

議員連盟の将来の展望は21世紀の最大課題である地球温暖化・成長産業化と密接に関わっている。1950年の「都市建築物の不燃化の促進に関する法律」、同年の「建築基準法」、1955年の「都市建築物の不燃化の促進に関する法律」等によって、木材利用が削減され、住宅市場も削減されて事業規模に於いて、約70%削減した。2006年「地球温暖化対策の推進に関する法律」(住宅や公共の建築物の省エネルギー等)等によって、木材利用が削減された。2008年の「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」(木材利用促進法)によって、木材利用抑制政策から、地球温暖化対策の推進と木材利用促進が両立するようになった。削減した70%の事業規模を議員連盟が失地回復し、新たな成長を可能とする国の政策が求められている。

要望書

議員連盟の将来の展望は21世紀の最大課題である地球温暖化・成長産業化と密接に関わっている。1950年の「都市建築物の不燃化の促進に関する法律」、同年の「建築基準法」、1955年の「都市建築物の不燃化の促進に関する法律」等によって、木材利用が削減され、住宅市場も削減されて事業規模に於いて、約70%削減した。2006年「地球温暖化対策の推進に関する法律」(住宅や公共の建築物の省エネルギー等)等によって、木材利用が削減された。2008年の「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」(木材利用促進法)によって、木材利用抑制政策から、地球温暖化対策の推進と木材利用促進が両立するようになった。削減した70%の事業規模を議員連盟が失地回復し、新たな成長を可能とする国の政策が求められている。

議員連盟
 林野 承彦 殿

一般社団法人
 木の総合文化・ウッドレガシー
 会 長

時の話題

**日本産材振興！
 国産木製サッシの普及拡大へ向けてウッドレガシーを
 推進する議員連盟、並びに林野庁長官へ要望書を提出
 (一社) 木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会**

森林樹木の炭素固定機能を担保にした地球温暖化防止、或いは持続可能なエネルギー資源を生産可能な森林林業、地球規模でのSDGs達成へ向けた動きの中で日本の森林資源の役割と価値は今日極めて高いものがある。

戦後復興時代に植林したばかりの国産材や鉄・アルミ・プラスチック等の工業製品が普及拡大を遂げ、人々の暮らしを大きく変化、発展させてきたが、それに伴って排気ガスやゴミ等の環境汚染による弊害が最早無視できない問題となってきた。

人類が未来へ向けて持続的な経済発展を維持して行くには、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の大气中への排出量を極力下げていかななくては

ならない。そうした中、大气中から二酸化炭素を吸収し、樹木内に炭素として固定化する機能を持つ樹木、森林の育成と利活用が喫緊の課題として浮上している。

かつて木製の建具(サッシ)は、木造建築の日本文化の中で古くから住宅等に使用されて来たが、戦後アルミサッシが普及してからは徐々に木製サッシの需要が減少し現在では、普及率約1%未満という現状である一方、海外では優れた木製サッシの技術開発が進められ、耐久性に優れた木製サッシが日本のアルミサッシと同様の普及率となっている。

今回、(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(東京都板橋区常盤台4-13-3・日新興産ビル、原口博光代表理事・会長、☎03-3550-6311)は、日本産材の振興を一層強力に図る為には、たった1%未満の普及率しか持たない木製サッシの分野を積極的に支援し、日本産材の

森の回復と価値は今日極めて高いものがある。

戦後復興時代に植林したばかりの国産材や鉄・アルミ・プラスチック等の工業製品が普及拡大を遂げ、人々の暮らしを大きく変化、発展させてきたが、それに伴って排気ガスやゴミ等の環境汚染による弊害が最早無視できない問題となってきた。

人類が未来へ向けて持続的な経済発展を維持して行くには、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の大气中への排出量を極力下げていかななくては

ならない。そうした中、大气中から二酸化炭素を吸収し、樹木内に炭素として固定化する機能を持つ樹木、森林の育成と利活用が喫緊の課題として浮上している。

かつて木製の建具(サッシ)は、木造建築の日本文化の中で古くから住宅等に使用されて来たが、戦後アルミサッシが普及してからは徐々に木製サッシの需要が減少し現在では、普及率約1%未満という現状である一方、海外では優れた木製サッシの技術開発が進められ、耐久性に優れた木製サッシが日本のアルミサッシと同様の普及率となっている。

今回、(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(東京都板橋区常盤台4-13-3・日新興産ビル、原口博光代表理事・会長、☎03-3550-6311)は、日本産材の振興を一層強力に図る為には、たった1%未満の普及率しか持たない木製サッシの分野を積極的に支援し、日本産材の



▲木の総合文化・(ウッドレガシー)を推進する議員連盟会長の衛藤征士郎会長(中央奥)へ要望書を手渡し、懇談する

有効活用並びに衰退した木製建具業界の失地回復を目指す中で、建具業界の成長産業化を達成するとの明るい将来展望を持ちつつ、日本産材の木製サッシ製品としての有効利用が21世紀の最大課題である地球温暖化防止・削減を図ることに直接繋がることから、令和2年10月1日(木)、木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の衛藤征士郎会長(自民党衆議院議員)、太田昭宏会長代行(公明党衆議院議員)、原田義昭幹事長(自民党衆議院



▲木の総合文化・(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の太田昭宏会長代行へ要望書を手渡し、懇談する。公明党国交部会長の岡本三成部会長並びに国土交通省担当官5名出席

議員・前環境大臣)、そして石田祝稔共同幹事長(公明党衆議院議員)、加えて柿沢未途衆議院議員(無所属)、続いて林野庁の本郷浩二長官を直接訪問し、ウッドレガシー推進協議会の原口博光会長から木製サッシ需要増の為に具体的な「要望書」が手渡された。今回の、木製サッシ需要・供給を積極的に推進させようとの要望に対しては、各議員連盟の役員の下に国土交通省からも部長、課長2人、専門官、課長補佐・農学博士ら5人が同席して直に要望の内容に耳を傾けたうえ、国有



▲木の総合文化・(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の原田義昭幹事長へ要望書を手渡し、懇談する

林材を扱う林野庁の本郷長官、並びにウッドレガシーを推進する議員連盟の役員からも「良質な機能を有する日本産材製の木製サッシの需要喚起と普及に積極的に努めたい」との前向きな回答が要望側になされ、今後の日本産材による木製サッシ分野の需要拡大に対する期待は大いに高まったと云えよう。殊に無所属の柿沢未途議員は、国会の予算委員会や環境委員会で、アルミサッシの1200倍もの断熱性能を誇る優れた木製サッシの普及率が先進国中で最下位で、しかも日本には木製



▲木の総合文化・(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の石田祝稔共同幹事長へ要望書を手渡し、懇談する

サッシの性能基準・規格すらないことを指摘。木製サッシの普及が森林林業での需要拡大、雇用促進へ繋がりを、新しい産業が生まれ、有効な経済効果に關しても平素から質問し、調査結果についても報告している。要望側の参加者は、(株)日本の窓から中野渡利八郎代表取締役会長(兼任、(株)東京組顧問)、津田大二郎取締役社長(兼任、(株)東京組取締役社長)、梅田規久夫営業顧問、(株)東京組から佐々木秀人代表取締役社長、営業部の佐藤正志氏、そして(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の原



▲本郷浩二林野庁長官へ要望書を手渡す。写真右から(株)日本の窓の津田大二郎社長、木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の日高明広事務局長、柿沢未途衆議院議員、ウッドレガシー推進協議会の原口博光会長、本郷浩二林野庁長官、(株)日本の窓の中野渡利八郎会長、(株)東京組の佐々木秀人社長、同・左藤正志氏、(株)日本の窓の梅田規久夫顧問

口博光代表理事会長と理事の日高明広事務局長の7人が立ち会った。

(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会による要望内容は次の通り。

要望書

建具業界の将来の展望は21世紀の最大課題である地球温暖化防止・削減が建具業界の成長産業化と密接に關わっている。



ライツ高精度ツールホルダー

Thermo Grip

多品種少量生産を効率的に加工する目的でCNCマシン的高速送り化が世界のトレンドとなっています。

ライツThermo Grip サーモグリップ
(焼き嵌めチャック)

軸回転36,000rpmで送り40m/min(F40,000)という加工を可能にする高速加工用ツールホルダーです。
刃先に偏芯は、ハイドロチャック同等の0.003mm以内、さらに集塵を妨げない先端デザインです。軽量化が可能のためクランプ形状の切り抜きの際、惰性が少なく正確な寸法を造れます。
専用高周波ジェネレータでサーモグリップホルダーとルータービットを焼き嵌めます。刃物はサーモグリップと完全な状態で一体化し振動のない安定した高速加工を可能とします。
刃物の着脱は約1分で終了。ポリゴン方式と異なり、シャンク全面でクランプしますのでより確実な固定が可能です。
(参考までにシャンク25径で締め付けトルク500Nm)

詳しくは弊社営業マンまでお尋ねください。



ライツ株式会社

〒223-0059
横浜市港北区北新横浜2-7-2
Tel 045-533-3020
Fax 045-533-3021
Mail: info@leitz.co.jp
URL: http://www.leitz.co.jp



1950年の「都市建築物の不燃化の促進に関する決議」、同年の「建築基準法」。1955年の「木材資源利用合理化方策」等々によって、木材利用が制限され、住宅環境の変化も相俟って事業規模に於いて、約70%削減した。

2006年「地球温暖化対策の推進に関する法律」、「住宅や公共施設等への地域木材利用の推進」、同年の「住生活基本法」「森林吸収源対策としての住宅への地域材利用促進」。2008年の「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」。2010年の「木材利用促進法」によって、木材利用抑制政策から、地球温暖化対策の一貫として、積極的木材利用促進が図られる事になった。
衰退した70%の事業規模を建具産業

業界が失地回復し、新たな挑戦を可能とする国の政策が求められている。

低炭素社会実現のための木製窓に対する補助金制度創設について

■林野庁、国土交通省、経済産業省、環境省への要望

〈生産時における一次エネルギーが極端に低い商品に対する助成金の要望〉

高断熱窓の一次エネルギーが極端に低い木製窓に限定して助成金を優遇することを要望します。

〈日本産材使用の木製窓に対する助成金の要望〉

さらに国産木材であれば産地から製品化される場所までの距離が他の材料と比べて短くすむため輸送コストが少

なく、大きく炭素放出量の削減ができます。

日本の森林の正常な循環サイクルを維持するためにも窓サッシもアルミや樹脂製に変わって製造、廃棄時にも自然にも優しい日本産材使用の木製窓に補助金を出す等の積極的な政策を要望します。

〈木材の地産地消のための建具製造工場の誘致〉

各県に地元木材を活用する建具製造工場が出来るように企業を誘致していただきそれに対する補助金の検討も要望します。

防音工事の外部に面する窓に使用する材料の改訂要求について

■国土交通省への要望
〈防音用窓サッシの改訂要求〉

航空局の騒音対策として「学校等公共施設」、「民家」の防音工事に対して建具の窓サッシに対する補助金制度がありませんが、アルミ製か樹脂製サッシに限定されているので同性能を有する木製窓も追加していただきたい。

■防衛省への要望

〈防音用窓サッシの改訂要求〉

防衛省もサッシについての補助金制度がありますが、防衛省住宅防音工事標準仕方書により民家の防音工事に使用する防音サッシはアルミ製か樹脂製に限定されているので同性能を有する木製窓も追加していただきたい。

以上、ご検討の上、是非実現されん事を要望致します。